



86 金銅装横刃板鉾留衝角付冑 一点二の丸尚蔵館

出土地不明

鉄地金銅張製 長二六・三

古墳時代

古墳時代の日本では、基本的に二種類の冑が使われた。ひとつが、本資料や出品番号84・85などの「衝角付冑」と呼ばれるものである(衝角とは軍艦の艦首のうち、喫水線以下の尖った部分を指す)。これまでの研究により日本在来の冑の形であると考えられている。もうひとつは、「眉庇付冑」と呼ばれるもので、実物資料ではないが、出品番号87の絵図に描かれた、野球選手がかぶるヘルメットのような形態の冑である(80頁の写真右)。眉庇付冑は、日本で製作されたものではあるが、大陸から将来された冑の影響を受けて製作された外来系の冑である。

これらの冑の材質は、大半が鉄のみで製作されたもので、一部に革製と考えられるものも知られている。

本資料は、金銅板(銅板に金メッキを施した、あるいは金箔を押した薄い板)を鉄板に被せて、きらびやかに装飾を施している点の特徴される。また、単に金で飾るだけではなく、タガネを用いた精細な蹴り彫りによって点を連続させることで、波形やまっすぐな線を刻み、歩揺と呼ばれる小さな飾り板(出品番号76・87参照)を多数取り付けていた痕跡が残っている点においても、極めて装飾性が高いといえる。このような冑は、数が少ないものの眉庇付冑を中心に知られており、外来系の冑に金銅装が施される傾向がある。在来系の冑に金銅装を施すことは少なかったと考えられるため、古墳時代の冑を研究する上で、極めて重要な資料であるといえることができる。



右側面



左側面



正面



背面



背面 歩揺を取り付けた針金の残存状況



左側面 胴巻板の文様

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古代の造形——モノづくり日本の原点

三の丸尚蔵館展覧会図録No.78

編集 宮内庁書陵部

宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十九年九月二十三日発行

© 2017, The Archives and Mausolea Department
The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shōzōkan
Imperial Household Agency